



### 弱視の原因

院長 山口伸幸



弱視は主に小児期に起こる目の病気で、治療をしないと大人になってメガネをかけても視力がなくなるので大変シビアな問題です。みなさんの目は生まれた直後より視力がいいわけではありません。生直後は0.01位といわれ、3歳頃までに0.6〜0.7ぐらいの視力に発達するといわれています。つまり物を見ることによって視力は発達するので、もし物を見れない状態が小児期に続くとい視力が発達しないのです。例えば先天性白内障や斜視などにより物が見えない状態や過度の遠視や近視、乱視などにより裸眼で見にくい状態が続けば視力は発達せず、弱視になってしまいます。これは小児期の話で、視力が発達した大人になってから見えない状態が続いても弱視にはなりません。なぜなら大人は目が成長してきあがっているからです。小児で弱視になる目は比較的強い遠視が片眼にあり、もう一方の目でよく見えていると強い遠視がある方の眼では見ようとせず、不同視性弱視になるケースが多いようです。弱視の治療は使っていない弱視眼で物を見させる事です。つまり遠視や乱視などメガネで矯正して見える状態にすること。そして写真のように弱視眼でない方の目や眼鏡を遮蔽して強制的に弱視眼を使わせるアイパッチがあります。またアトロピンという散瞳薬を弱視眼でない方の目に点眼し、ぼやけさせて弱視眼で見させるペナリゼーション療法があります。ただ最近の研究報告では屈折矯正をした眼鏡をかけるだけで治療効果があることがわかり、アイパッチ療法をしない方向にあります。本人にとって1日数時間のアイパッチは少し辛いですが、そしてこの弱視の治療は、目が出来る10歳頃までに治療効果があり、それ以降は効果があまり期待できなくなるのです。つまり10歳を過ぎて弱視治療を初めて開始しても視力が上がらない事が多くなります。ですから小児の視力検査は大切で3歳児検診と就学時検診、学校検診はとて重要で、そこで視力障害がわからないと弱視治療が遅れる、あるいは見過ごされてしまい大人になってから見えない事に気付くのです。



☆<http://www.yamaguchi-eyeclinic.com>

## お知らせ

### 4月5日(水) 岩崎先生休診のお知らせ

★学会出席のため岩崎先生休診致します。この日は院長の診察のみとなります。

#### 診療医担当表

|    | 月        | 火        | 水        | 木        | 金        | 土  |
|----|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| AM | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長 |
| PM | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長<br>岩崎 | 院長 |

#### ご注意ください

※検査が必要な方は終了時間の30分前には来院下さい。(午前中は12:30まで、午後は6時半まで)特に視野検査がある方、メガネやコンタクトレンズ作成の場合は終了時間の1時間前(午前中は12:00、午後は6:00まで)には受付をして下さいますようお願い致します。

#### 編集後記

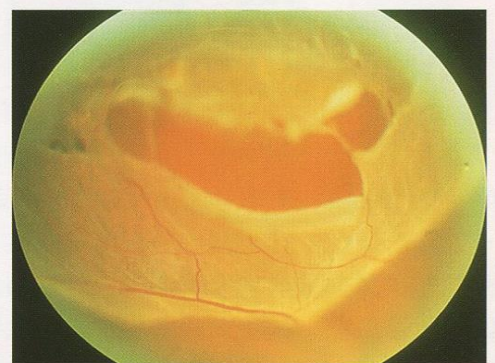
4月になりました。忙しい日々を追われ今年もあっという間に終わる感じがします(;)さて飛蚊症+光視症(目の前に閃光が走る)がある場合、飛蚊症だけの場合より網膜剥離の危険性が高いことがわかっています。光が見える、という症状の場合にも眼科を受診し、眼底検査をお受けください。

### 飛蚊症は網膜剥離の前兆かもしれない

網膜剥離が起きる前に、なにか前触れはないのでしょうか。もしそうした症状があるのなら、早期診断・早期治療によって、視野も視力もより良好な状態を維持できるはず。そこでクローズアップされてくるのが、飛蚊症です。

#### 飛蚊症とは～症状と原因～

飛蚊症は、目の前にゴミがちらついて、あたかも蚊が飛んでいるように見える症状のことです。本来は無色透明である硝子体の中に、加齢とともに線維性の混濁が生じてきます。その混濁が眼球を動かしたときにフラフラと動いて、飛蚊症として自覚されます。青空や白い壁を見たときなどに、よりはっきり見えます。後部硝子体剥離後はとくに線維性混濁が著しくなることが多く、糸屑やリング状の物が見えたりします。これらは加齢とともに多くの人に起こり得る「生理的飛蚊症」といって、心配いりま



網膜剥離が起きた眼の眼底写真

せん。たいていの飛蚊症はこれに該当します。しかし、初めて自覚したときには、病気によるものと区別できないので、検査が必要です。

#### 網膜裂孔・剥離の症状としての飛蚊症

後部硝子体剥離などの硝子体収縮により網膜に亀裂が生じたり、網膜の血管が切れて出血して硝子体に血液が広がる場合があります。この際に飛蚊症が増悪します。これは網膜裂孔や網膜剥離の自覚症状といえますが、症状だけでは生理的飛蚊症と区別はつきにくく、眼底検査を受けなければ判断できません。

飛蚊症を自覚した場合、まずは早めに眼科を受診しましょう。眼科では、視力や視野の検査とともに、直接網膜を観察する眼底検査を行い、診断を確定します。

